

09月度 例会 個人 山行報告書		報告者	杉本 孝	参加 メンバー	CL: 岸上 薫 SL: 津田 廣一 杉本 孝
		報告日	10/14		
山 域	南アルプス	山行日	09年09月26日(土)～		
山 名	聖岳		09月27日(日)		

山行目的	南アルプスを楽しむ	コースタイム (天候: 天気図記号)
------	-----------	--------------------

配布先	
集会:12	
山行: 1 リーダー	
原紙:集会 担当者	



09/26 晴れ	07:15 聖岳 一本
06:00 道の駅遠山郷発	08:05 小聖岳通過
07:20 便ヶ島登山道着	08:31 薊畑分岐 一本
07:40 発	09:45 一本
08:40 一本	11:38 便ヶ島登山道着
09:45 一本	
10:50 2000m 付近一本	
11:50 一本	
12:20 薊畑分岐通過	
12:35 聖平小屋着	
09/27 晴れ	
03:30 起床	
04:05 聖平小屋発	
04:25 薊畑分岐通過	
05:15 小聖岳 一本	
06:20 聖岳山頂 一本	
06:48 奥聖岳山頂	
06:55 聖岳発	

〈山行報告〉前日発(金曜)で、道の駅「遠山郷」にテント泊となった。ここは天竜川の上流河川で、更に奥に向かうと、静岡県の水窪と言う村に行き当たる。この道の駅には、温泉があり、足湯もあるので、今後行かれる方は参考にされると良いかも知れない。この晩は、3人で足湯に浸かり、テント内でささやかな宴を楽しみ、就寝に就いた。翌朝、便ヶ島登山道駐車場にて準備をして、いざ出発。4時間半程度、杉林の中を延々と登る。景色は良くないものの、樹木のお陰で、木洩れ日の柔らかさと、そよ風を受け、然程暑さを感じられなかったのは良かった。樹林帯を抜けると、薊畑分岐に差し掛かる。名前通り薊があちらこちらに咲いていた。なだらかな木道を降る事15分、聖平小屋に到着。無事到着を祝い乾杯。青空の下昼間から宴の開始。夕方には、鼾を掻き爆睡していた筆者だったらしい。〔小久保(聡)さん文筆のパクリ〕翌朝3:30起床で、4:00発の予定だが、流石に11時間の睡眠は出来ず、夜9:00前と、深夜1:00頃に目が覚めた事を覚えている。外には、深々と雨音が聞こえるのが分かったが、早朝には上がっていたのでほっとした。予定通り、4:00出発で懐電を照らし、真っ暗な山道を歩く。木が鬱蒼として、獣が出そうな雰囲気だ。聖岳へ向かう途中で御来光を見る。金色の光が眩しく、とても

綺麗だった。真横に富士山の陰が薄っすらと現れた。稜線に出た時の風は冷たく、秋を肌で感じた。聖岳山頂で握手を交わし、奥聖へ。奥聖から見た赤石岳は、どっしりした感じで雄大で、避難小屋の赤い屋根が妙にアクセントになり、絶妙なビューポイントである。聖岳に戻り、後はひたすら降るのみ。3人で談笑しながら2日間の行程は過ぎて行ったのであった。



確認 (リカー)	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">岸</div> </div>
09/09/30	

〈リーダー所見〉 天気が良く、全員怪我なく登頂できたので◎。山頂から見える雄大な赤石岳、振り返れば光岳を見て、次回の登る楽しみが出来た。山小屋は既に営業終了、水もタンクに少し入っている程度だったため、水は下から多めに持っていく必要あり。ただ、聖平小屋はきれいに整備されており、9月下旬以降であれば、テントは持っていかなくても良い。



作成 (報告者)	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">杉</div> </div>
09/09/30	